



れんげ畑

～ 結 の 学 校 ～

5月号



五月晴れの五月

校 長 永塚 壽一



入学・進級してから、早 3 週間。登校や教室での子どもたちは、ずいぶん新しい班や新しい教室にも慣れ、新緑にも負けないぐらいの笑顔で過ごしています。

新緑の五月。上記のイラストのような、すがすがしい青空を思い浮かべます。五月を使った言葉に、「五月晴れ、五月雨、五月蠅い」といった言葉があります。その多くは旧暦の頃の言葉であり、今の暦でいう「6月頃」のことなのだそうです。

「五月晴れ(さつきばれ)」と聞くと、新緑の季節のからっと晴れ渡った青空を想像しますが、元々は「梅雨の晴れ間」や「梅雨の合間の晴天」を意味していたようです。昔の人は、梅雨の長雨で、空模様も人々の気分もいま一つ優れない時季に、ふと見えた晴れ間の嬉しさに使っていたのでしょう。

同様に「五月雨(さみだれ・さつきあめ)」は、梅雨の長雨のこと、「五月蠅い(うるさい)」は梅雨の時期のハエが活発に動き回ることから、この漢字が当てられたようです。

旧暦から新暦へと変わった当時の人々は、様々な面でもなり混乱したことだろうと思います。



子どもたちが学校で学んでいる「知」も、社会の状況や時代の変化、新しい知の発見により、大きく変わる可能性があります。言葉を変えると「知は絶対的なものではなく、暫定的なものである」ということです。

それ故、絶えず「知」を刷新していくことが必要となります。そこで本校では、「主体的な学習＝自ら求め、仲間と力を合わせながら自ら解決する中で身につける『知』の学習」に取り組んでいます。



まずは「やる気」を高め、「自分からやろう」とする意思を高めることを重点の一つとしています。



間もなく始まる大型連休。入学・進級といった大きな節目を経験した子どもたちは、きっと「ほっ」としていると思います。その

ようなお子さんの興味・やる気をアップできる体験を家族みんなで楽しんでください。